

我が社のイチ推し！



都市産業株式会社（山口県宇部市）

「環境目標達成プロデュース企業」目指す
産廃の新型焼却炉とケミカルリサイクルプラント稼働

今年稼働した新型焼却炉

化学工場からの廃油・廃液など年間約4万トン进行处理

産業廃棄物中間処理業者の都市産業株式会社は、新たなリサイクル手法の導入等を通じて、顧客のカーボンニュートラルの取り組みを支援する「環境目標達成プロデュース企業」への飛躍を目指している。今年稼働した新型焼却炉とフォーミング抑制剤製造プラントがその一翼を担う。

同社は1971年、運輸業の小野田通運(株)（山陽小野田市）がコンビナートの各種タンク清掃事業に参入した際に、作業時に発生する廃液の処理を目的とする子会社として設立。現在は小野田通運(株)とともに富士商グループホールディングス(株)の傘下に属している。

同社は、山口県や北部九州の製造業、特に化学工場等から排出される廃油や廃液、汚泥などを処分し、無害化と再資源化を行っており、取扱量は産廃処理専業では県内最大の年間約4万トンに達する。今年7月には3代目の焼却炉をリプレースし、試運転を経て本稼働を開始。焼却時に発生する熱を再利用して自家発電する装置や、産廃の入ったドラム缶を燃焼室に直接投入できる設備等を備え、環境負荷低減や作業効率化を図る。



焼却炉の自家発電装置

産廃の分別・調合に係るノウハウが強み 新たなリサイクル手法も導入

同社は産廃焼却前の分別・保管・調合に細心の注意を払う。液体は顧客からの情報等に基づき、内容別に仕分けするほか、固形物は状態や成分に応じて調合し、安定した焼却を行う。産廃は処理期限が決まっているほか、近年は高濃度の廃液が増えるなど内容も多様化する中、様々な条件に対応できる分別や調合のノウハウが同社の大きな強みとなっている。

焼却後の燃え殻はセメント原料に、ばいじんは専門業者を通じて亜鉛を取り出し工業原料にする。これらは廃棄物の物性を変えずに他の製品の原材料とする「マテリアルリサイクル」であるが、同社は新たに、従来は焼却・埋立処分していた廃プラスチック等を用いて、フォーミング抑制剤（「エコマイト®」）の製造を開始。熱分解により原材料に再生する「ケミカルリサイクル」をスタートした。

フォーミング抑制剤は、製鉄において原料を炉内で溶かす際、副産物の一酸化炭素による発泡を抑え、生産効率低下を防ぐため用いられる。同社は今年、和歌山県の企業が開発した技術をベースに OEM で製造するプラントを新設。今秋から製鉄所への出荷を始めた。焼却処分に向かない産廃の出口が広がり、日本では低水準にとどまるケミカルリサイクルの拡大にもつながる。中村光社長は「廃棄物の有効活用を通じて、日本のものづくりに貢献できる」と話す。



フォーミング抑制剤

働きやすい職場づくり推進 循環経済構築に貢献し新たな産廃業者として生まれ変わる

同社は「産廃業者のイメージを変えたい」（中村社長）との考えから、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。男性の育児休業取得率は2016年以降100%で推移し、2019年には工場長が、厚生労働省の「イクボスアワード2019（部下の仕事と育児の両立を支援する管理職の表彰制度）」の特別奨励賞を受賞。2025年7月には同省の「くるみん」（次世代育成支援対策推進法に基づく登録制度）にも認定されるなど、子育てに関するサポート体制を整備しており、女性従業員が産廃の成分分析など第一線で活躍している。経済産業省が創設した「健康経営優良法人」（中小規模法人部門）にも認定されている。

今年4月、同社は5か年計画を策定し、「環境目標達成のプロデュース企業になる」とのメッセージを打ち出した。念頭にあるのが企業間連携による循環経済の構築だ。産廃を排出する化学メーカー等の企業にとって、カーボンニュートラルは差し迫った課題であり、同社はリサイクルの幅を広げ、提案できるメニューを拡大していく。「お客様の環境目標達成に向けた対応策を一緒に考え、取り組みをお手伝いしていきたい」と話す中村社長の下、同社は新たな産廃業者として生まれ変わるべく、日々邁進する。

都市産業株式会社
代表取締役 中村 光 氏
本社：山口県宇部市大字船木 61 番 41



ホームページ

